資料　9

前回の監視円卓会議で意見等のあった事項について

１　「排出管理目標値超過のおそれ」の明確化について

２　ＪＥＳＣＯ北九州事業：生物調査の概要について

３　ダイオキシン類のコプラナーＰＣＢ比率について

「排出管理目標値超過のおそれ」の明確化について

前回の監視円卓会議において、当事業所の浄化槽排水の分析結果が排出管理目標値に近い値であるにも関わらず通報・連絡の考え方に即した対応をしなかったことについてご指摘がありました。

浄化槽排水の分析項目のうちＢＯＤ、全窒素及び全燐については排出管理目標値の最大値と日間平均値が定められていますが、本項目については従来から１回のみの採取・分析であったため、日間平均のことは考慮しておりませんでした。それゆえ、分析結果が最大値以下であったため問題なしと判断しましたが、その結果、先のご指摘を受けることとなりました。

このことを受けて、以下のとおり、当事業所が測定する大気及び水質の分析結果について「排出管理目標値超過のおそれ」の定義を明確化し、今後は速やかに対応することとしました。

１．大気（排気）について

排気口におけるオンラインモニタリング（セーフティネット活性炭前で測定）でＰＣＢの排出管理目標値（0.01mg/m^{3}N）を超えた場合を「おそれ」とし、道と市に区分Ⅱの対応（速やか連絡）をするとともにオフラインモニタリングを実施する。オフラインモニタリングの結果が排出管理目標値を超過した場合は区分Ⅱの対応を継続（プレス公表等）するが、オフラインモニタリングの結果が排出管理目標値以下の場合は適宜オフラインモニタリングを実施するなど引続き注意深く様子を見守ることとする。

それ以外の項目（オフライン測定でのＰＣＢ、ダイオキシン類、ベンゼン）については、現在のところ排出管理目標値に対して２桁以上低い値で推移しており、大きなトラブルがない限り分析結果が排出管理目標値を超過するおそれはない。そのため、特に「おそれ」の定義は設けないが、分析結果が排出管理目標値の 10 分の１を超過した場合は速やかに道と市に連絡し、対応について協議するものとする。

２．水質（排出水）について

日間平均値がある項目（浄化槽排水のＳＳ，ＢＯＤ、ＣＯＤ、全窒素、全燐）は、１日３回のサンプリングの分析結果の平均値が日間平均値を満足しており、かつ、全ての値が最大値以下であるものの、１回でも測定値が日間平均値を超えている場合を「おそれ」とする。

日間平均値がない項目のうち、浄化槽排水のｐＨ及び n－ヘキサン抽出物質については、日常の水質検査（ｐＨ の実測、油膜や異臭の有無）で排出モニタリングの実施前に異常を確認できるため、特に「おそれ」の範囲は定めないものとする。

以　上

日本環境安全事業(株)
北海道事業所

JESCO 北九州事業所：生物調査の概要について

1　調査目的

PCB 廃棄物処理施設の稼働により排水の流出先となる海水の水質変化を確認する一つの手法として生物調査を実施。

2　調査場所

事業地の雨水排水放流先となる洞海湾出口

3　調査方法等（平成 20 年度）

- 調査対象生物：ムラサキインコガイ
- 採 取 場　所：雨水排水管の海域への放流口近辺の護岸
- 採 取 記 録 ：個体数約 100 個体、貝殻付総重量 1.3kg、剥き身総重量約 0.1kg（潜水ダイバーが採取）
- 試 験の方 法：溶媒抽出―高分解能ＧＣ／ＭＳ法

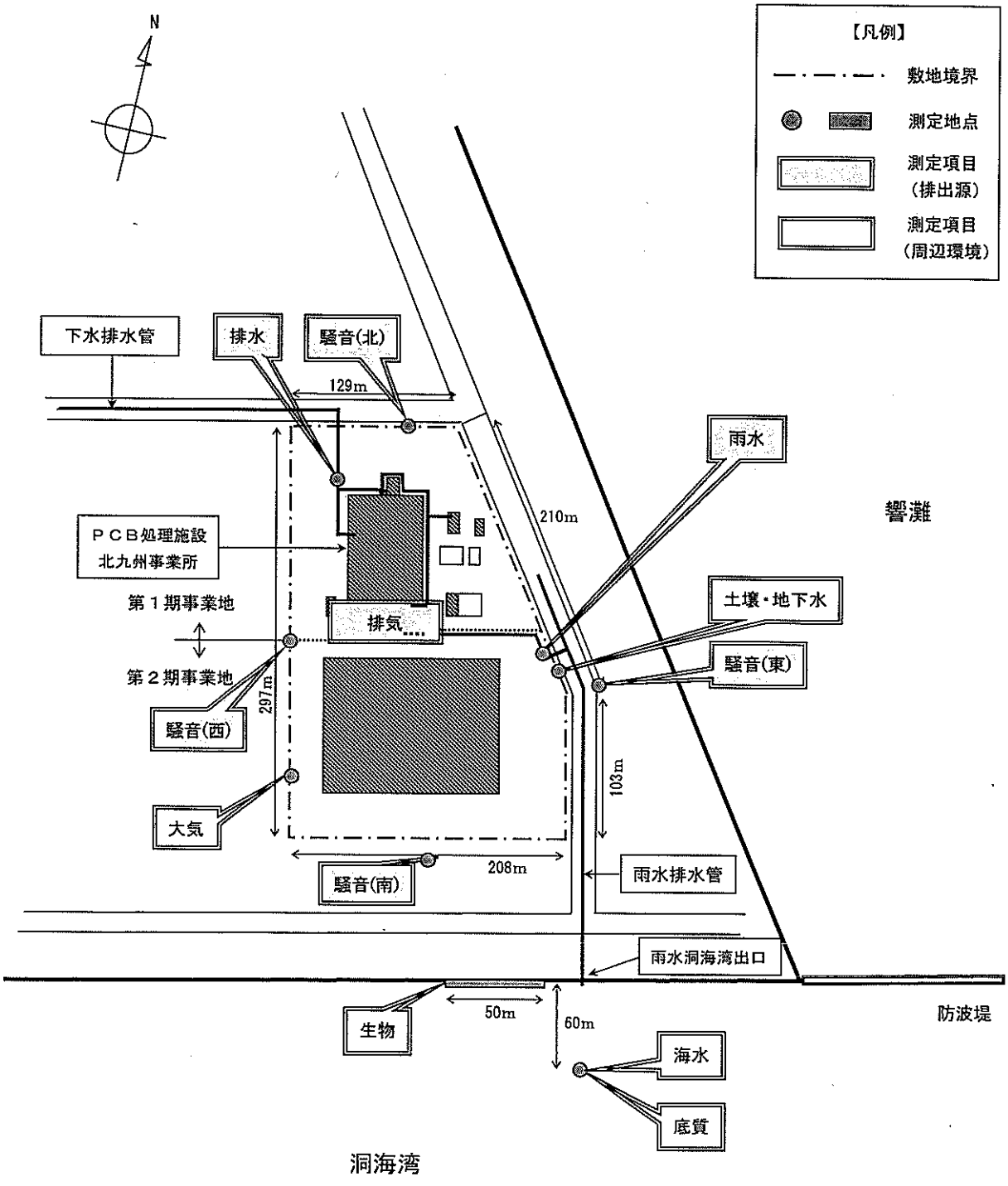
4　生物モニタリングの分析結果について

（以下北九州市ＰＣＢ処理監視委員会資料　抜粋）

調査時期	試料採取日	PCB (pg/g・wet)	ﾀﾞｲｵｷｼﾝ類 (pg-TEQ/g・wet)
15 年度	2 月 9 日	20,000	0.50
16 年度	2 月 3 日	16,000	0.98
17 年度	2 月 10 日	35,000	1.6
18 年度	2 月 10 日	16,000	1.2
19 年度	2 月 1 日	19,000	0.80
20 年度	2 月 10 日	8,700	0.54

注）PCB、ダイオキシン類とも基準は設定されていない。

北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業
平成20年度　環境モニタリング調査地点図



悪臭　悪臭は測定日当日の風上と風下でサンプリングします。

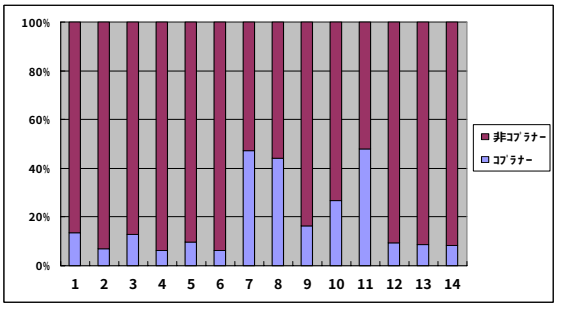
ダイオキシン類のコプラナーＰＣＢ比率について

当事業所で測定している水質中のダイオキシン類は雨水幹線排水合流前の地点で環境分析として実施している。環境分析として分析結果を評価する場合は、検出下限値以上の成分についてはその値を、検出下限値以下の成分については検出下限値の２分の１を加えて求めることとされている。

その結果、コプラナーＰＣＢ以外の成分に検出下限値以下の項目の多いことから、非コプラナーＰＣＢ成分（ポリ塩化ジベンゾフラン及びポリ塩化ジベンゾパラジオキシン）が主体的となっている。（グラフの赤い部分）

(%以外の単位はpg-TEQ/リットル)

グラフ番号	採取月日	環境 (NDは2分の1加算)			
		DXNs	ｺﾌﾟﾗﾅｰ	非ｺﾌﾟﾗﾅｰ	ｺﾌﾟﾗﾅｰ比率
1	2008年5月29日	0.095	0.013	0.082	14%
2	2008年6月17日	0.084	0.0058	0.078	7%
3	2008年7月17日	0.094	0.012	0.082	13%
4	2008年8月7日	0.091	0.0056	0.086	6%
5	2008年9月2日	0.076	0.0075	0.069	10%
6	2008年10月14日	0.089	0.0057	0.084	6%
7	2008年11月11日	0.19	0.09	0.1	47%
8	2008年12月8日	0.24	0.11	0.14	46%
9	2009年1月13日	0.11	0.017	0.088	15%
10	2009年2月3日	0.66	0.18	0.49	27%
11	2009年3月2日	0.25	0.12	0.13	48%
12	2009年4月20日	0.043	0.0041	0.039	10%
13	2009年5月20日	0.043	0.0037	0.039	9%
14	2009年6月8日	0.043	0.0035	0.039	8%

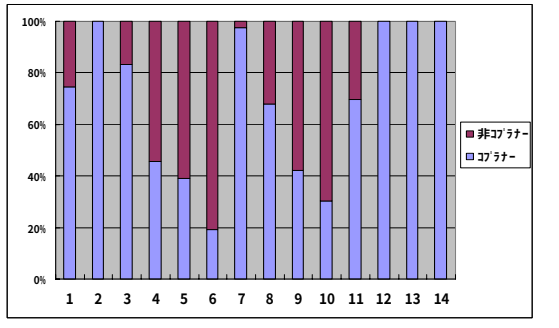


一方、排出源として計算する場合は検出下限値をゼロとして計算するため、環境分析の計算値よりも小さくなる。

その結果、コプラナーＰＣＢは検出下限値以上の値であるが、それ以外の項目に検出下限値以下が多いことから、コプラナーＰＣＢ成分が主体となっている。（グラフの青い部分）

(%以外の単位はpg-TEQ/リットル)

グラフ番号	採取月日	排出 (NDはゼロ)			
		DXNs	ｺﾌﾟﾗﾅｰ	非ｺﾌﾟﾗﾅｰ	ｺﾌﾟﾗﾅｰ比率
1	2008年5月29日	0.0012	0.00088	0.0003	73%
2	2008年6月17日	0.00054	0.00054	0	100%
3	2008年7月17日	0.0014	0.0012	0.00024	86%
4	2008年8月7日	0.00083	0.00038	0.00045	46%
5	2008年9月2日	0.0059	0.0023	0.0036	39%
6	2008年10月14日	0.0027	0.00052	0.0022	19%
7	2008年11月11日	0.091	0.089	0.0022	98%
8	2008年12月8日	0.15	0.1	0.047	67%
9	2009年1月13日	0.005	0.0021	0.0029	42%
10	2009年2月3日	0.56	0.17	0.39	30%
11	2009年3月2日	0.17	0.12	0.052	71%
12	2009年4月20日	0.00067	0.00067	0	100%
13	2009年5月20日	0.00025	0.00025	0	100%
14	2009年6月8日	0.000072	0.000072	0	100%



結果として、実態的にはコプラナーＰＣＢ成分が主体であるが、環境分析としての現状の報告値では非コプラナーＰＣＢ成分が主体となっている。

以　上